



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより



「たくましく」

ひよし保育園 園長 船木 芳枝



昨年四月より新・保育所保育指針が施行されました。保育園は、養護と教育を一体的に行うこととなり、乳幼児期の保育から小学校就学後へのつながりを明確にし、『主体性』『自己肯定感』を育てるような指針になっています。『保育所は、子どもたちの命を育む場、人が人間らしく心豊かに育つための場』と考え、村山苑保育四園は乳幼児期の育ちを大切にしたいと考えています。

保育目標に『たくましく』を掲げ、子どもたちの年齢や発達に沿って日々の生活の中から豊かな感性を育み、遊びを通して社会性や協調性を養い、子どもたちが心身ともに成長していけるような保育を心がけています。もし、子どもたちが困ったこと等の壁にぶつかった時には、自分でしなやかに対応し、乗り越えていく心たくましさ。また、友だちが困っていたら手を差し伸べる優しさや勇氣をもてるたくましさ。私たちは、この先、子どもたちが未来に向かって夢と希望を持って自分らしく歩んでいけるよう手助けをしていければと願い、保育所で働く全ての大人が子どもたちと過ごす時間を大切にしています。

保育所は、子どもたちの健全な発達の保障と保護者支援や地域の子育て家庭の支援を行う役割を担っています。昨今、核家族が故に子育てに悩む家庭が増えています。閉ざされた社会や家庭の中で、しつけと称した体罰が行われ、それが虐待につながり、幼い尊い命が奪われるという事件がありました。そのような家庭が保育園に足を運び、子育ての話ができるよう開かれた保育園でありたいと思います。

皆様の更なる御支援、ご協力をいただきながら、これからは、「今、地域に何が必要で、何をすべきか」を把握し、新たなニーズにしっかりと向き合い、共に地域の中で開かれた子育ての発信基地として、日々振り返りながら機能と役割を果たし歩み続けていきたいと思っております。

施設長退任のご挨拶

ほんちよう保育園

石井 司



縁あって、つぼみ保育園・ほんちよう保育園の経営・運営

に携わってから早いもので七年の歳月が経過しました。保育園では子どもたちが日々成長していく姿からたくさんの方の力をもらい、また職員や保護者の方からの様々な支えの中で充実した日々を送ることができ、無事に現役時代の幕を閉じることができたことに改めて心より感謝申し上げる次第です。

諸々の制度はその時々時代のニーズを踏まえて改革されなければならぬものですが、この七年間を振り返りますと、子ども・子育て支援新制度の導入を始め、待機児童の解消や保育士等の人材確

保をめぐる諸施策への対応に“振り回された”といっても過言ではなかったように思います。今年の十月からは「幼児教育・保育の無償化」が実施となりますが、待機児童の解消や保育士等の人材確保等についてはより厳しい状況が生まれるのではないかとの危惧を禁じえません。“対処療法”的なものではなく、中・長期視点に基づいた実効性のある抜本的な施策が展開されることを切に望んでいます。

令和元年度はいよいよ法人の一大事業となるハトホームの移転改築が始まる他、「働き方改革」を始め、福祉分野においても高齢・障害・生活保護・保育という種別を問わず、様々な制度改革が予定されています。

時代が要請する新たなニーズと真摯に向き合いながら、法人理念の具現化に向けて、法人関係者が一丸となって取り組みを進められることを心より祈念いたしまして退任のご挨拶といたします。

施設長就任のご挨拶

ほんちよう保育園

右田 尚子



この度、石井司園長の後任として、ほんちよう保育園の園長に就任いたしました。

三十二年前に短大を卒業し、ふじみ保育園に入職しました。子どもたちと保護者の皆さん、そして頼りになる先輩方に囲まれ、悩み迷いながら毎日が精一杯でした。その間、結婚、出産をし、子育てとの二足のわらじは、私にとっては目が回るような日々で、その頃のことは正直言うてよく覚えていません。そのような中でも、ここまで続けてこられたのは、子どもたちの笑顔と声、「今日もありがとう、お疲れ様」と声をかけてくださる保護者の皆さん、「今日楽しかったね！今度はどうする？一緒に頑張ろうね。」と支えてくれた先輩と同僚たちのおかげです。感

謝の気持ちでいっぱいです。

三十二年前とは保育園を取り巻く環境は、制度も、求められるニーズも、役割もずいぶん変わってきています。村山苑の保育園が大切にしてきたことと、時代とともに変わっていかねばいけないことをしっかりと見極めて進んでいかなければなりません。

保育園は、子どもたちが一日の大半を過ごす場です。その子にとって二度とない大事な毎日にかかわるのが、私たちの仕事です。なんと責任の重い仕事なのでしょう。そして、その子の二度とない毎日にかかわれるなんて、なんと幸せな仕事なのでしょう。

子どもの最善の利益のために、保護者の皆さんと手をとりあって、職員全員で同じ方向を向いてこれからの毎日を積み重ねたいと、気持ちを新たにしています。そして、私が仕事を続けてこられたように、職員の皆さんが「ずっと続けたい。」「保育園って楽しい。」と思える職場づくりに努力をしていきたいと思えます。

関係各所の皆さまのご指導を賜りますように、どうぞよろしくお願いたします。

平成三十年永年勤続者表彰

平成三十一年一月十一日(金)村山苑恒例の新年の集いを催し、その席において次の十九名の方々が品川理事長より永年勤続の表彰状および報奨金を授与され、参加者の祝福を受けられました。

勤続三十五年	勤続三十年	勤続二十五年	勤続二十年	勤続十年
さつき荘 八木幸雄	法人本部 相原弘子 ひよし保育園 船木芳枝	村山荘 新井貴将 さつき荘 岩間ひろみ	村山荘 石渡篤史 さつき荘 中尾美和 八トホームム 下田修子	村山荘 小沼しのぶ さつき荘 長谷川亮 福祉事業センター 日比野渉 八トホームム 柳澤謙二 つばみ保育園 齋藤典人 丹羽淑美 ほんちよう保育園 猪狩亜希子
福祉事業センター 成田一枝				

勤続四十年を迎えて

さつき荘

調理員 八木 幸雄

昭和五十三年三月に村山苑に就職させていただき、おかげさまで勤続四十年を迎えることが出来ました。二十歳で就職したときは、まさかこんなに長く勤めることができるとは夢にも思いませんでした。ここまで続けてこれたのも、一緒に働かせていただいている職員皆様のおかげだと心から感謝しております。本当にありがとうございます。表彰に恥じぬよう、感謝の気持ちを忘れず真摯に仕事をしたいと思えます。

就職した時、最初に配属されたのは村山荘でした。調理員として採用されたのですが、午前中は利用者の通院の運転手、午後は厨房で調理業務という具合に、当時の寮母職の仕事も行いました。あの頃は男性職員が少なかったため、利用者旅行の付き添いや運動会などの行事に参加することもあり、利用者に関わることも多くありました。調理業務だけでなく、たくさんのお事を経験させてくださった上司に感謝しております。その方のデスクの上に挟んであった「キビキビ、ニコニコ」という言葉がなんとなく気になり、書き写して今も自分の部屋に貼ってあります。定年までのカウントダウンが始まったと感じていますが、同じ四十年のサザンやMARIYAさんも頑張っているの、私も負けずに頑張ります。

勤続二十五年を迎えて

村山荘

援助員 新井 貴将

平成五年四月に入職しました。福祉の仕事の右も左もわからない自分に先輩方から優しく丁寧に教えていただきました。いろいろな話を聞いたり、聞いてもらったりし、仕事を覚え色々な経験をし、気が付けば二十五年があつという間に過ぎてしまったと感じています。

入職後は福祉事業センターに勤務し、身体障害者の作業施設でしたが法改正もあり、三障害が対象になり、利用者の対応と一緒に作業を行うのは大変だなど感じました。その後、村山荘に異動し、作業中心から生活中心の施設に変わり、仕事内容も施設によって百八十度も変わる物だなと驚きました。利用者の方も精神障害が中心で、通院等に付添う事も有り、今まで知らなかった精神科の病院数の多さに驚きました。又、精神疾患の対応の難しさに、日々考えさせられる事が多いなと感じています。

二十五年経過しましたが今後も日々努力をし、少しでも成長出来るようにして行きたいと思えます。

勤続十年を迎えて

つばみ保育園

調理員 丹羽 淑美

働き始めて十年、長かったような短かったような。十年前、二人の子どもが大きくなり正職に就くことを考えていた私は「つばみ保育園」で働くことになりました。当時私は四十歳。得意な料理の腕を生かせればと思っていました。

保育園の給食は、行事食や旬のものを取り入れたメニューが多くあります。また、食育活動を支える仕事もあります。仕事は大変ですが、その中で質の良い料理を作って子どもを健康を支え、食べる楽しさを伝えていこうと思っています。子ども達が「オカワリクダサイ」と給食室に来てくれると、励まされているようで、この十年がんばってきました。

これからも変わらず、日々試行錯誤を重ね子ども達の成長の手助けとなるよう、おいしい給食を提供できるように努めていきたいと思えます。



平成三十一年度 事業計画

先ず、村山苑における経営の基本となる基本理念と、基本理念に基づき法人内各施設の基本方針、及び法人が規定する倫理綱領、行動規範の周知徹底を挙げておきたい。

法人事業の安定的な継続を図るためには人材確保が喫緊の課題となっており、今年度は外国人留学生派遣

の活用を手始めに外国人労働者の雇用について具体的な検討を始めた。また、在職職員の定着に努めることも重要であることから、働きやすい職場環境の改善を図るほか、職員の意見を聞きながらの研修計画を立て、個々のスキルアップ体制を充実させる必要があると思つてい

ブック、ユーチューブ、ホームページなどの宣伝媒体を有効に使用していきたい。実習校のみならず近隣高等学校や大学、また東村山市内地域の方と普段から交流を深め、法人

施設を理解してもらう機会を多く設けていくことで人材の確保に繋げていきたい。

利用者支援については、今年度も引き続き「村山苑虐待防止ブック」を基に、利用者に対する虐待防止の取り組みを行っていく。「不適切な支援は虐待にあたる」という観点から、職員自らの自己評価を行い、率直に話し合える職場環境・風土づくりに更に力を入れたい。苦情対応については、利用者・保護者からの意見・要望が出やすい環境を整え、出された意見（苦情）・要望には真摯に

耳を傾け、適切に対応していく。虐待防止、苦情対応、事故防止は関連していることから、他法人や法人内他施設との交換研修等を行い、また、実習生や見学者など、外部の目を入れることも、利用者サービスの向上に重要なことと思つている。

施設設備整備としては、今年度からハトホーム「北館大規模改修及びプライバシー保護改修工事」が始まり、また東京都代替施設を利用して

の「ハトホーム南館等建替事業」が本格始動することになる。3年にわたる大事業であるので、法人各施設の協力を得ながら進めていきたい。

1. 法人体制

ハトホーム南館等建替に伴い、本部事務所や生活相談所の移転があるため、法人事務局の体制を見直し、より施設との情報共有を緊密にし、

事務処理の効率化を図っていききたい。また、昨年度から導入している会計監査人の内部統制に関する助言も参考にしつつ、法人全体の事務処理体制の再構築を検討したい。

また、生活相談所は、救護施設との連携はもとより、東村山市内法人連絡会の「暮らしの相談ステーション」窓口として、法人の地域公益活動の拠点としていく。

2. 介護保険事業

平成三十一年度は、消費税率引き上げ及び新しい経済政策パッケージに基づく介護職員の更なる処遇改善等における介護報酬改定が予想されるも、事業の収益増への期待は薄い。そうした中でハトホームの北館改修、南館の建替えとそれに伴う施設の分割は、法人始まって以来の大事業であり、資金の確保、人材の確保

を確実に実行しなければならない。

そのためには、職員一人ひとりに
で現状と今後の事業目標を周知して
理解を得、法人施設一丸となって取
り組んでいきたい。また、各サービ
ス拠点の稼働率・利用率を上げるた
め、非常勤職員を含むすべての職員
の質の向上を図るための研修を実施
するとともに、業務の効率化を進め
るため、助成金を活用し新規支援ソ
フトの導入を検討する。

利用者サービスにおいては、特に
虐待防止の体制の検証を確実にに行
いながら、職場内研修を継続していく。

3. 生活保護施設事業

救護施設については、平成二十九
年十二月十五日の社会保障審議会
「生活困窮者自立支援及び生活保護
部会報告書」において、「様々な障
害や生活課題を抱え、居宅生活が困

難な生活保護受給者を適切に支援す
るという役割を担っている保護施設

の施設体系については、関係者の意
見も十分に聞いた上で、更に検討す
べきである。検討に当たっては、入
所者の特性に応じたサービス提供機
能を強化するため、入所中の者の他
法施策の利用や退所後の利用者への
支援機能の強化、福祉事務所の役割
の発揮・広域調整のあり方、適切な
日常生活支援を行う無料低額宿泊所
等の将来的な制度的位置づけとの関
係整理などの課題も含めて議論を深
めるべきである。」としている。村
山苑の二施設では、積極的に地域社
会におけるセーフティネット施設の
役割を果たすため、個別支援計画に
基づき、利用者の地域生活移行支援
の強化と、他種別施設への移管に取
り組み循環型の施設としての機能を
強化していく。

4. 保育事業

平成三十年四月から導入された
「新保育指針」に基づき、保育四園
が共通の「たくましく」の保育目標
の下、時代が要請する新たなニーズ
にしっかりと向き合い、保育並びに
保護者支援と共に地域の子育て支援
にも関与していきたい。保育士等の
処遇改善では制度改革の趣旨を充分
に踏まえ、指定研修の受講等により
実効性のあるキャリアアップに向け
た取り組みを行う。また、今年度か
ら宿舍借り上げ支援やICT化を進
め、保育従事者の確保、定着に繋げ
たい。

5. 障害福祉サービス事業

障害福祉サービス等報酬について
も、介護報酬と同様消費税率引き上

げ及び新しい経済政策パッケージに
基づく福祉・介護職員の更なる処遇
改善等における介護報酬改定が見込
まれている。早めの情報の収集で対
応を検討する。利用者支援では、就
労継続B型支援、就労移行支援、就
労定着支援とともに、作業や訓練の内
容を見直す等で利用者の多様なニー
ズに応えていきたい。また障害者福
祉施設職員による虐待事案の増加は
看過できない問題として「虐待は犯
罪である」という意識をより深め、
職員一人一人がこの問題に真摯に向
き合い、利用者支援の充実を図りた
い。



施設通信

ほんちよう保育園

ほほえみ子育てひろば

主任保育士 幸田千香子

保育園の二階にある部屋には、地域にお住いの子育てをしているご家庭に向け、平日の午後一時から四時まで「ほほえみ子育てひろば」を開設しています。

多くの方に来て頂きたいという願いもあり、いろんなイベントを企画しています。中でも人気が高いものは、わが子に合った運動や自宅でできる簡単な運動などを専門の先生に教えてもらう「健康体操あそび」や産後の身体をほぐす「親子ヨガ」、子どもの肌に触れスキンシップを取りながら親子



でリフレッシュする「ベビーマッサージ」です。この他にも月に一回、栄養相談や計測の日を設けています。

先日、引越して間もない親子がやってきました。まだ友だちもいないので、心配するお母さんの気持ちが充分伝わってきました。でも週に何回か来て下さる中で、自分の子と同じくらいのお子さんと来た方と自然に話すようになり、少しずつ笑顔も見られるようになり、きつと子育ても楽しくなってきたのではないかと感じました。これからも、「ほほえみ子育てひろば」は、地域の親子がいつでも気軽に利用でき、ゆつくり過ごせるよう温かい雰囲気のお部屋を心がけ、親子同士が知り合い、子育ての悩み等、お互いが気軽に話ができるようにお手伝いをしていきたいと思えます。



福祉事業センター

就労継続B型の作業紹介

職業指導員 今井 和宏

私が担当する就労継続B型の作業グループについて紹介します。主な作業はベルトコンベアーを使ったダイレクトメールの帳合から封入、封緘、宛名貼りまでを行っています。一枚一枚のチラシを決められた枚数を重ねて封筒に入れ、封を閉じ、宛名のシールを貼りつけるまでベルトコンベアーを使い流れ作業として行っています。また最近ではDVDの梱包作業も受注しており、こちらの作業もベルトコンベアーを使って流れ作業として行っています。ベルトコンベ

アーを使うた作業の良い点は、流れ作業なので作業者が移動することなく作業できる事と帳



合、封緘等、一人が一つの作業に集中してできる事です。その為、効率的に作業を進める事ができ、大量の注文にも対応することが出来ます。

また簡易作業として、箱折り等の作業も受注しています。こちらの作業はDVDを入れる内箱やお菓子の箱など組み立てる作業で、ベルトコンベアーでの流れ作業が苦手な方や一人での作業を好まれる方を中心に作業を行っています。

また別の担当の作業では、自動車の内装などに使う用品の梱包作業や工業用ロボットの電線加工の仕事をしています。

このように福祉事業センターでは、日々利用者の方々が作業を行い、工賃として利用者へ還元することで生活を充実させ、自己実現へと向けた支援に取り組んでいます。



村山苑
「いいね!」を探そう
キャンペーン2018



村山苑で仕事をされていて体験したり、感じたりした、いいなあと思っただこと、ナイス!と思っただこと、心温まるエピソード、皆に伝えたいこと、プラスの気付きを投稿して頂き、十三名が「いいね!」しました。応募期間2018年10月4日〜2018年11月30日、各種別グループ代表の選考委員による投票を行い、超いいね賞一作品、いいね賞一作品、ちょっといいね賞一作品、審査員特別賞一作品が選ばれました。2019年1月11日に行われた法人新年会にて表彰されました。以下、超いいね賞一作品といいね賞一作品、ちょっといいね賞一作品、審査員特別賞一作品をご紹介します。



超いいね賞

「予期せぬ便り」

ほんちようケアセンター
岡本 友子

週一回のそうじの援助で入っていたYさんは、耳が遠いけれど、やさ



いいね賞

「スーパークリッパ」

Mさん
ふじみ保育園 稲橋美直子

ふじみ保育園の窓ガラスをご覧ください。曇りなく映る自分に、

驚かれることでしょう。そこには、ただ磨いて綺麗にするという仕事の姿勢だけではないのです。

春には満開の桜を、夏には真っ青な空を、秋には赤・黄色に色づいた木々を、そして冬には澄み切った空気と散らつく雪を、室内からも観て欲しい。移りゆく季節を子どもたちが感じられるように!!という、Mさんの思いがあるのです。

誰かのために掃除をする。子どもたちの嬉しそうな顔を思い浮かべながら手を動かす。Mさんの後ろ姿は「思いを持って仕事をする」ということを教えてくれています。ありがたいでは足りませんが、やっぱり一番言いたい言葉です。沢山、沢山、ありがとうございます。



ちょっといいね賞

「笑顔でおはよう」

ふじみ保育園 中島里沙子
(旧姓 辻)

ふじみ保育園の周りには、村山苑の福祉施設がたくさんあります。子どもたちとお散歩に出かけると、毎日のように利用者さんや職員の方と顔を合わせ、挨拶がかわかれています。はじめは緊張している様子の子どもたちも、日々の繰り返しから挨拶をする子も増えていきます。そんな子どもたちの姿に、

いいね!と思いました。

審査員特別賞

「毎日うれしいこと」

さつき荘 米澤佐知絵

毎日、仕事していると、利用者さんが毎日笑顔で挨拶してくれたり、「いつもきれいにしてくれて、ありがとうございます」と言ってくれます。これから寒くなるので、そういうことを言ってもらえると心が温かくなり、これからも頑張って働ける力になります。

資格取得者

次の方々が新しく資格を取得されました。おめでとうございます。日々の業務に活かされ、ご活躍を期待しております。

〔社会福祉施設長〕

資格認定講習過程

ハトホーム 岡野 雅和

〔社会福祉士〕

ハトホーム 大野 昭子

〔介護福祉士〕

さつき荘 長谷川 亮

並木 由美

苦情解決第三者委員からの報告

第三者委員 田村 均

第三者委員として平成三十年度は、二十回施設を訪問しました。それぞれの施設から半期ごとの苦情受付の内容と対応の経過及び改善策について説明を受けました。法人の方針としてすべての苦情内容をオープンしていくということが徹底されているように感じました。また、件数は少なかったのですが施設利用者からの相談に乗ることもできました。

施設を訪問して一番目が行くのは、玄関を入った時の雰囲気です。お花が飾ってあったり、職員・利用者の笑い声や掲示物に気配りが感じられると心が和みます。社会問題化されている「虐待」とは程遠い施設づくりを目指してほしいと願っています。各施設に苦情に対しての受付者及び解決の責任者が配置されていることから第三者まで相談が来ることは

苦情解決 第三者委員

任期 平成31年4月1日～
令和3年3月31日



野田 敦子 田村 均

少ないのが実情だと思いますが、各施設で受審している第三者委員の認知度調査結果を見ると第三者委員の認知度はかなり低いという結果が出ています。当事者としてももう少し多くの施設関係者に接する機会を持つことで改善していければと考えています。

苦情受付状況を年度の前期と後期に分けてホームページで公開し、第三者委員に報告しています。平成三十年度の第三者委員の施設訪問実績は、左記のとおりです。

- ▼ハトホーム
平成30年4月22日、平成31年2月4日
- ▼ハトホーム在宅サービスセンター
平成30年6月4日、10月19日
- ▼ほんちようケアセンター
平成30年9月14日
- ▼村山荘
平成30年6月19日、10月19日
- ▼さつき荘
平成30年6月4日、10月1日、平成31年2月4日
- ▼福祉事業センター
平成30年6月25日、平成31年2月25日
- ▼つぼみ保育園
平成30年5月21日、9月26日
- ▼ふじみ保育園
平成30年5月21日、9月26日
- ▼ほんちよう保育園
平成30年4月26日、9月14日
- ▼ひよし保育園
平成30年4月7日、10月10日

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5
● 法人本部 ☎042-393-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎042-313-0301
- 村山荘 (救護施設) ☎042-391-1262
- ハトホーム (特別養護老人ホーム) ☎042-393-7574
- ハトホーム在宅サービスセンター ☎042-398-2555
- 福祉事業センター (障害福祉サービス事業) ☎042-395-3636
- ふじみ保育園 (保育所) ☎042-394-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2
● さつき荘 (救護施設) ☎042-396-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2
● つぼみ保育園 (保育所) ☎042-393-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-4-3-1
● ほんちよう保育園 (保育所) ☎042-399-2100
- ほんちようケアセンター (高齢者施設) ☎042-399-2102
- 〒185-0003 東京都国分寺市戸倉2-27-6
● ひよし保育園 (保育所) ☎042-843-0202

▲あとがき▼

今年の桜は、保育園の入園式に満開の美しい姿で、新入園児たちを出迎えてくれました。そして四月末日に三十年間続いた「平成」が幕を閉じ、翌五月一日に新たな時代「令和」がスタートしました。

さて、村山苑の令和元年度は、ハトホームの南館等の建替えに係る大きな事業が始まり、そのため九月には清瀬市に建てられている東京都の代替施設に移ることになっています。この一大事業を法人の役職員が協力して進めてまいります。

(Y・S)

―表紙の写真―

「越生 山吹の里にて」

提供者 柴田嗣雄氏

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

* * *
ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和元年五月吉日 発行
東京都東村山市富士見町二七―五
社会福祉法人 村山苑
発行者 品川 卓正
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四―一―八